

1 提案者 本山 貴雅 (中野市立平野小学校)

2 提案内容

(1) 2年・道徳・単元名「ピッコラとはあそばない？」

(2) 利用した番組「銀河銭湯パンタくん」

(3) 授業のねらい

人によって態度を変えることなく、公正公平に接しようとする心情を育てる。

※学習指導要領の内容との関連

[C－(13) 公正・公平] 自分の好き嫌いにとらわれないで接すること。

(4) 授業の実践記録 9月11日月曜日 2年2組にて

段階	学習活動	児童の様子	指導・助言
はじめ	ジゴバットに悪さをされたとき、ピッコラに親切にしてもらった時のパンタたちの気持ちを考える。	ジゴバット、やーだー。 煙突ふさいだら苦しくなる。困る。 みんなが嫌がるし、息もできない。 ピッコラ、すごい。前はやばい奴だったけど。(タマミーのらくがきの内容) 優しいなあ。マジで。バッグをほめてくれる。ゲームを貸してくれる。スケボーを一瞬で直してくれる。	最初～銭湯のシーン 「この人たち、ジゴバットのことをどう思うかな？」 ピッコラ登場のシーン 「ピッコラのことをどう思うかな。」 ペアと話すよう指示する。
なか	パンタに「ピッコラと遊ばないでおこう」と言われた時のパースとギギの気持ちを考える。	どっちにすればいいのかな。なやむ。 友達だから遊びたいけど、ジゴバットの子どもだから・・・ 友だちとして大丈夫かな？ ジゴバットはよくないけど、ピッコラはやさしいから。 ピッコラも悪いかもしれない。	ドッチンロンが出たシーン 「パースとギギはどんな気持ちだと思う？」 子どもが若干混乱していた様子があるので、状況を絵カードを使って整理した。しゃべったことを書くよう指示する。
	ピッコラに「悲しかった」と言われた時のパンタたちの気持ちを考える。	ごめんなさい。 反省している気持ち。 自分たちはさけていて悪かった。	「ピッコラに『みんなにさけられて悲しかった』と言われた時、パンタたちはどんな気持ちだった？」
	映像を見て、友だちと仲良くするために大切なことは何かを考える。	見た目で判断しない。 そういうので勘違いしない。 いじわるしない。 お父さんがジゴバットでもピッコラが悪くなければいい。ピッコラは優しいからいい。 誰かのお父さんが悪くても関係ない。	「今日のお話を見て、友だちと仲良くするために大切なことは何？」 隣としゃべったことを書くよう指示する。 「いじわるしない」の中身を問う。
	お友達が悪い人だったらどうかを考える。	次郎君は仲間はずれにしてはだめ。 いいのに、二人とも離れ離れになれば一人で遊ぶことになる。 友だちとはいっても・・・ 見た目で人を判断しない。	「太郎君、次郎君はとても仲良かったけど、太郎君は悪い人だった。太郎君と次郎君は仲いいけど、花子さん。次郎君もなかまはずれにしていいますか？」

※NHK for school の指導上の参考にある指導案（木村隆史氏）のものを参考にさせていただきました。

(5) 考察

① 授業映像を自分で見て感じたこと

- ・太郎君、次郎君、などと言わないほうが良い。「誰かのお父さんが悪くても関係ない」と子どもから意見が出ている。それを板書して「お父さん」を「お兄さん」「お姉さん」「友達」に変えて考えさせたらよかったか。新たなシチュエーションを示されて、子どもたちが混乱した。
- ・全般的に、子どもを「待ちすぎて」いる。そのため、授業が「だれて」いく。もう少しテンポを上げる。話せない、書けないのは「わからない」、または「授業がつまらない、何をしているのかわからない」からかと思われる。「発言はしないけど、きちんと書いて待っている」真面目な女の子の意見を取り上げていく。

② 参観された先生方から頂いたご意見

- ・お父さんやお母さんが悪い人だからといって仲間はずれにしていけないことには子どもは納得したが、「友達」だったらどうするか悩む様子があった。子どもが「自分事として」この授業をとらえはじめた場面だった。⇒ここをもっと突っ込めたらよかったか。
- ・子どものつぶやきを拾い、板書し、それを「モデル」にしてからペアや全体で話し合ったりすると、子どもはより話しやすくなる。⇒発言者が固定されがちなこの学級へのアドバイス。
- ・映像を止めた場面がやや多く感じた。子どもの意識がとんでしまう。授業記録の「はじめ」で映像を止めていて子どもに考えさせたが、必要ないのでは。「ドッチンロン」の場面、「みんながペースやギギだったらどうする？」と自分たちにかぶらせて考えさせたらどうか。
- ・道徳の授業では、登場人物の誰の行動について考えさせるかが大切。この教材であれば、遊ぶか遊ばないか迷い、遊んだパンキチの姿。「どうして一緒に遊んだのかな？」問いかけてみては。

③ 児童の学習カードから

- ・お父さんが悪くても、子どもは悪くないから遊んでもいい。
- ・仲良くいじわるしないで、遊んで悪いことをしたらすぐにあやまる。
- ・さけないで、友達を大事にする。

⇒「仲良く意地悪しない」というのはあくまで「一般論」である。1行～2行程度しか書けない子もいた。

子どもから「見た目で人を判断しない」というつぶやきがあった。「見た目」とは今回の内容は異なるが、「〇〇で人を判断しない」〇〇に入るものを考えさせても良かった。

④ 後日、別のクラスで授業をした時の様子

頂いたご意見をもとに、同じ教材で隣のクラスで授業を行った。「ドッチンロン」が登場するまで一気に見た。ただ一人、ピッコラと遊んだパンキチについても取り上げた。「みんなならどうする？」と問いかけると、すぐにペアで話がはじまった。「大人がよくなくても子どもがよければ遊んでいい」「自分の気持ちがあるから仲良しで良い」など、本時のねらい「人によって態度を変えることなく、公正公平に接しようとする心情を育てる。」に迫る発言が続いた。子どもは違ったが、同じ教材でも、展開を少し変えるだけで、ここまで変わるのかと驚かされた。授業研究の醍醐味を感じた。

(6) 番組への要望

- ・『仲の良いお友達のお父さんが悪者だから遊ばない』この設定は子どもにはやや現実離れしている」というご意見をいただいた。今回、使用している教科書の題材が「公正・公平」を扱うには弱い内容であると判断したため、動画教材を選択した。同じ教材でも、やり方によっては十分ねらいに迫ることができると感じた。
- ・効率的な教材研究のため、倍速視聴機能の実装を、強くお願いしたい。